

臨床研究
「原発臓器ごとに比較した血管肉腫の臨床病理/遺伝子学的比較検討」
について

筑波大学附属病院では、標題の臨床研究を実施しております。
本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

血管肉腫はその希少腫瘍であるが故にこれまでその臨床学的特徴、遺伝子学的な特徴の解析があまり進んでいません。多様な組織に発生し、一番の好発部位は頭皮原発ですが、原発臓器の種類によってその臨床学的特徴が異なっている可能性があり、特に発症年齢で大きな差がある可能性があります。今回我々は筑波大学附属病院で2007年1月1日から2020年6月30日にかけて診療をおこなった血管肉腫症例について臨床学的特徴を抽出し、解析する臨床研究を計画致しました。これまでの私たちの経験から、皮膚原発症例と皮膚外原発症例とで臨床学的特徴に差があると予想しておりますが、予想通りの結果が得られた場合は、病理部に保存してあるパラフィン包埋検体またはバイオバンクに保存してある凍結検体を用いて遺伝子解析を筑波大学プレジジョン・メディスン開発研究センターで実施する予定です。そして、皮膚原発と皮膚外原発症例の遺伝子学的特徴を調査すると共に、サブ解析として、原発臓器ごとの遺伝子学的特徴についても解析を行い、探索的な調査を行う予定です。

② 研究対象者

2007年1月1日～2020年6月30日の間に筑波大学附属病院にて血管肉腫と診断された診断時年齢15歳以上の患者様を対象とします。

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2024年3月31日まで

④ 研究の方法

癌登録室および各診療科のデータベースから対象者のデータ抽出し、診療録閲覧により、⑤に記載の項目の調査、解析を行います。また、生検検体（バイオバンクに保存されている凍結保存検体または病理部に保存されているパラフィン包埋ブロック）が保存されている症例について、遺伝子解析を筑波大学プレジジョン・メディスン開発研究センターで実施してその遺伝子学的特徴を調査すると共に、原発臓器ごとの遺伝子学的特徴についても解析を行います。これらの情報は誰のものかわからないように番号で管理します。

⑤ 情報の項目

多各血管肉腫症例の発症年齢、全生存期間、性差、悪性腫瘍家族歴、悪性腫瘍既往歴、症状出現から病理学的診断に至るまでの期間、病理学的診断時の遠隔転移有無、治療内容、化学療法奏効率の調査を行います。

また、生検検体（バイオバンクに保存されている凍結保存検体または病理部に保存されているパラフィン包埋ブロック）が保存されている症例について、全エクソン解析（遺伝子解析）を実施します。

⑥ 試料・情報の第三者への提供について

該当しません。

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学附属病院 腫瘍内科 鈴木敏夫

⑧ 研究機関名および研究責任者名

筑波大学附属病院 腫瘍内科 鈴木敏夫

⑨ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族が本研究への参加を希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：腫瘍内科 鈴木敏夫

電話：029-853-3525（平日 10～17 時）